

病害虫発生予察警報第 1 号

佐賀県

作物名：早植え及び普通期水稻

病害虫名：トビイロウンカ

1) 警報の内容

発生地域：県内全域

発生量：平年より多い

2) 警報発令の根拠

- (1) 県内（嬉野市）のライトトラップでの 6～7 月の総捕獲数は、10 年間（2011～2020 年）の中で、最も多かった（令和 2 年 7 月 22 日付病害虫発生予察注意報第 2 号参照）。
- (2) 8 月 17 日に実施した早植え水稻の調査（山間地域 12 圃場）では、本虫の**発生株率**は 52.7%（平年 4.0%、前年 16.0%）であり、平年および前年より高かった（図 1）。
- (3) 8 月 17 日～19 日に実施した普通期水稻の調査（県内 48 圃場）では、**発生株率**は 14.1%（平年 3.8%、前年 7.4%）であり、平年及び前年より高く（図 2）、一部では寄生虫数が非常に多い圃場も認められた（写真 1）。
- (4) 普通期水稻の県予察圃場（無防除）におけるトビイロウンカの株あたり**成幼虫数**は、本虫が多発した 2013 年より多い（2020 年 8 月 19 日：55.1 頭、2013 年 8 月 16 日：2.8 頭）。
- (5) 福岡管区气象台が 8 月 13 日に発表した九州北部地方の 1 か月予報によると、向こう 1 か月の気温は平年より高いと予想されており、本虫の増殖に好適な条件となっている。

以上のことから、今後さらに本虫の発生が増加し、減収等の被害を生じる恐れが高まっている。

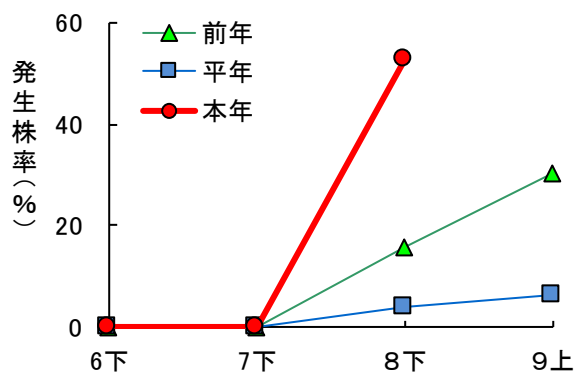


図 1 山間早植え水稻でのトビイロウンカの発生推移

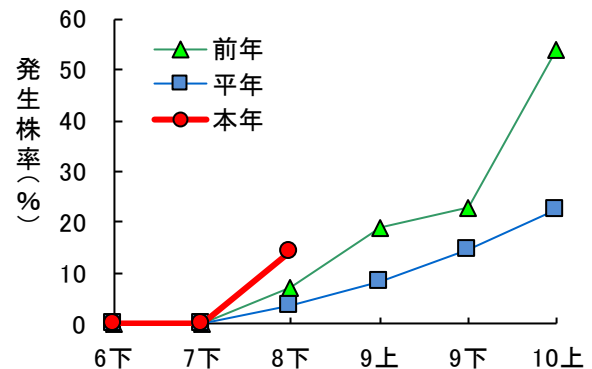


図 2 普通期水稻でのトビイロウンカの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤による防除適期は、幼虫ふ化揃い期である。しかし、本年はトビイロウンカの飛来が断続的に見られたことから、飛来波ごとの幼虫の出現時期は異なる。
- (2) 本虫は株元に生息しているのので、薬剤は株元まで十分かかるよう、丁寧に散布する。
- (3) 田植え時期、品種、地域およびこれまでの防除の違い等によって、圃場ごとに発生状況は大きく異なるので、発生予測図(図3)を参考にして各圃場の発生状況を確認し、適期防除を実施する。
- (4) 薬剤散布の際には、周辺作物への飛散防止に努めるとともに、収穫前使用日数及び使用回数等の農薬使用基準を遵守する。



写真1 定期調査圃場で確認したトビイロウンカ(2020年8月19日撮影)
～ 幼虫、成虫(矢印)

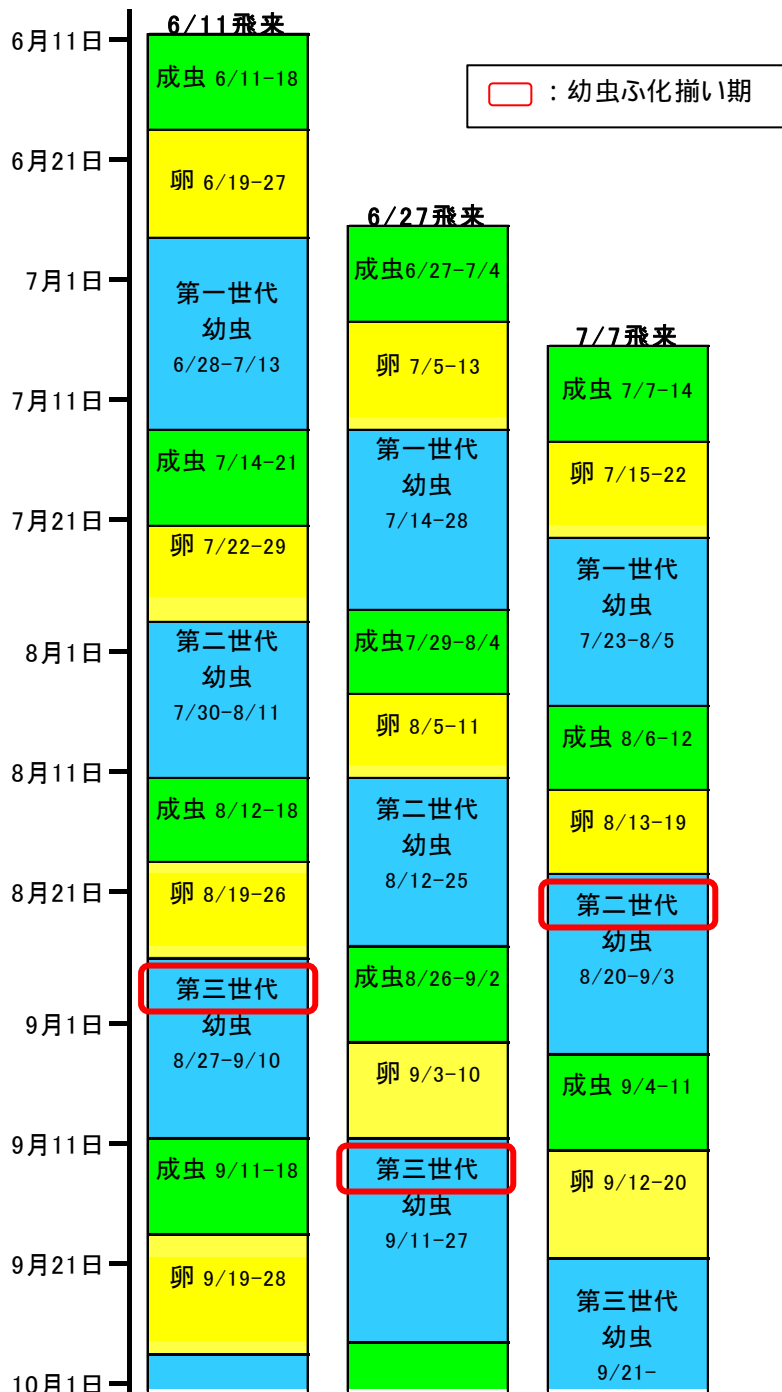


図3 トビイロウンカ各世代の発生予測（第6版、2020年8月19日作成）

1. 6月10～15日（図では6月11日）、6月25～28日（図では6月27日）、7月6～11日頃（図では7月7日）の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度（第5版では8月12日以降は平年値、第6版では8月19日以降は平年値）を基に作成した。その結果、第6版と第5版の各飛来虫のその後の発生予測時期は、変わらなかった。
2. 本虫に対しては、**幼虫ふ化揃い期の防除効果が最も高い**。しかし、**本年は断続的に飛来がみられたことから、飛来波ごとの幼虫の出現時期は異なる**。
3. 田植え時期、品種、地域及びこれまでの防除の違い等によって、本種の発生量は異なる。また、これらの田植え時期等によって、各飛来波に対する防除の重要度も異なるので、**各圃場の発生状況を確認し、適期防除を実施する**。
4. 今後の**飛来状況、気象経過**に応じて本図は随時更新する。最新情報は農業技術防除センターのホームページを確認する。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
 〒840 2205 佐賀市川副町南里 1088
 TEL (0952)45 8153 FAX (0952)45 5085